

自分に立ち戻り、組織にエンゲージする

パウンダリーレス・エクスペリエンス

脱境界の体験

2026年度プログラムの開催にあたり

コロナ禍を経て、私たちは生き方・働き方の自由を手に入れました。

しかし同時に、「自分はどう生きたいのか」「自分にとって働く意味とは何か」という、答えのない問いに直面しています。AIが瞬時に「正解らしきもの」を提示してくれる時代。ですが、このような根本的な問いには、検索エンジンもAIも答えてはくれません。一人の人間として、心の奥底にある目的意識や「本当に実現したい未来」を静かに見つめ直す。今、私たちに最も必要なのは、そんな自分に立ち戻るための時間です。

組織もまた、大きな転換期にあります。

多様化する個人に対して魅力的な条件や環境を提供し、組織の求心力を保とうとする努力が、個人の受動的な適応を促してはいないでしょうか。あるいは、既存の枠組みの中で正解を出し続けることを求められる状況が、働く人の視野を狭めてしまうもあるかもしれません。今、組織に求められているのは、既存の枠組みの中で早く・正しくアウトプットする人材の育成ではなく、個人が自らの価値観やありたい姿に自覚的になるための「枠組みの変容」支援です。

自らの軸を再発見した個人が、自律的に組織とつながり、ともに組織や社会を進化させていく。

そんな「しなやかで有機的な関係」を育む場をつくりたい。

正解がないことへの「揺らぎ」を恐れず、プロセスを共に歩み、支え続ける場をつくりたい。

そんな思いから、このプログラムを企画しました。

自分自身と世界の境界線を引き直し、変化を楽しみながら生きようとする皆さんと、このプロセスを歩めることを心から楽しみにしています。

人生と仕事の質を豊かにする「脱境界の体験」

業界や組織をといた物理的な境界を越える、越境体験やトリートとは異なり、自身の内面、あるいは自らを取り囲む環境との間につくられていた認知的な境界と出会い、問い直し、あらためて引き直すような体験を「脱境界の体験」と名付けました。

役割や成果だけで人を捉えるのではなく、感情や価値観、関係性を含めた「人としての全体性（アイデンティティ）」を取り戻していく営みであり、いわば人間性の回復と捉えることができます。こうした体験は、仕事を単なる業務の遂行から意味ある営みへと変化させ、人生と仕事の質の双方を豊かにしていく可能性をもっているのです。

【個人】 人生の目的意識

仕事を含む、
人生の自己実現
(人生と仕事の
自己実現の融合)

↑↓
【組織】 組織のパーパス



対象者

日々の役割から離れ、自分の価値観に立ち戻ること、これからの生き方・働き方を改めて描き直したい人。例えば…

- 育児や介護などと仕事の間で板挟みになっている管理職
- 与えられた役割・仕事の中で貢献し、成果も出ているが、もう一步ブレイクスルーしてほしい現場リーダー
- 組織やメンバーへの貢献に全力を尽くし続け、自分が見えなくなっているリーダー
- あるべき姿や求められている姿に合わせようとしてしまう若手メンバー
- 人生の転機にあたり、適応を模索している方（役割／配置の転換・育児や介護・転職・再雇用）
- （送り出す方からみて）もっと確信をもって仕事に取り組んでほしい方
- （送り出す方からみて）成長や成果について、新しい見方や考え方の枠組みを身に着けてほしい方

参加者を支える「送り出しメンバー」

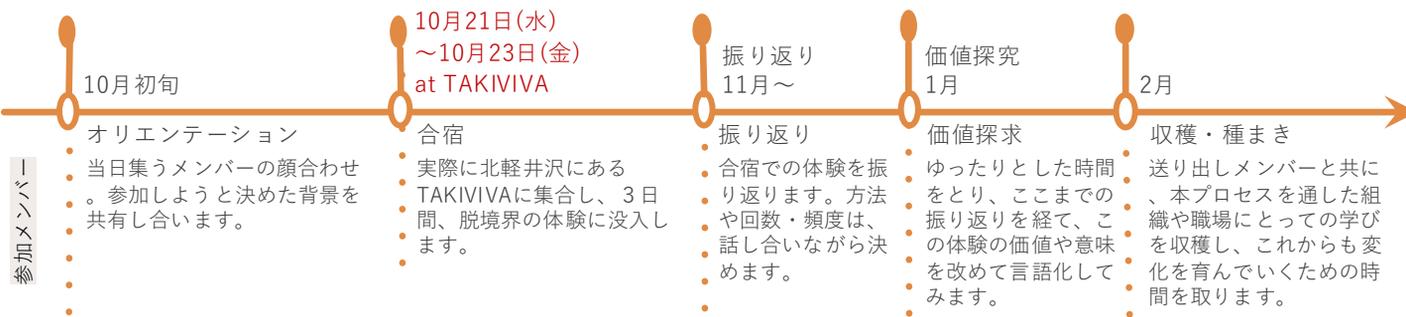
合宿には参加しませんが、合宿に参加するメンバーを職場で支えます。

一般的なプログラムでは、参加後すぐに得られた価値の言語化や、具体的な成果を求められがちです。参加メンバーもそうしたものを持ち帰らなければならないと感じてしまうあまり、探求が深まっていないのに拙速に答えを出そうとしてしまうものです。送り出しメンバーは、脱境界の体験に参加するメンバーが、職場に戻った後もそうした阻害要因に意識を傾け、参加者が探求に集中できるような環境を一緒にととのえていく伴走者となります。合宿前後には、他社の送り出しメンバーと対話する機会も設けます。

実施期間

2026年9月頃～2027年2月頃予定。

2026年10月21日(水)～10月23日(金)に北軽井沢にて合宿を行います。その他の会合は、参加者の皆さんと相談して設定します。



出発前

- 送り出しメンバー
- オリエンテーション
- 今後の流れや参加者へのサポートについて検討します。

合宿

参加者が合宿に集中できるように、職場から支援し、送り出します。

帰着後

- タッチポイント
- 合宿後の参加者とのやりとりや、伴走者としての気づきを共有し合います。方法や回数・頻度は、話し合いながら決めます。
- 収穫・種まき

これまで参加された方の声

忙しい毎日を送っているからこそ、あえてひたすら自分に向き合う体験を作り出すこと自体に意味があると感じています。

同じように苦しんでいる人に対して、自分は何ができるか、考えていきたい

自分の役職を離れて、他組織の人と対話することに価値を感じました

以前はもっと「自分の一部を仕事に捧げる」とか「職場の私はフォーマルな自分」という感覚が強かったと思います。今回の一連のプロセスを通して、自分が今大事にしていることは何か、何を探求したいかを、枠を決めずに探求できたように感じています。

(職場の人と) 2人で行ったことも良かった。仕事以外で話をした体験があるということが、価値だと感じられている

目的やスケジュール、役割がない状態で話すことができた。何も決まっていないからこそ自分で決めるという、意思が生まれた

今まで「～べき」や責任感が強く「私がやらなきゃ」と思っていたけど、これでいいんだと思えるようになった

今まで他人軸で行きっていたんだなと、気づけた。もちろんそれも大切だけど、それだけで仕事しないことが大事だと感じた

企画

株式会社ヒューマンバリュー：全体の学習プロセスの企画・実施支援

有限会社きたもっく：TAKIVIVAでの合宿（2泊3日）の企画・催行・実施支援

参加費用

【プログラム参加費用】参加メンバー一人につき15万円+税

※ お申込時、ヒューマンバリューよりご請求いたします

※ 送り出しメンバーの参加費も上記に含まれます

【合宿費用】別途各自でご負担。宿泊費・食費・地域体験等が含まれます。

※ 合宿後、TAKIVIVA様よりご請求予定

※ 合宿参加費用は参加者数により変動しますが、約5～8万円+現地への移動費/人を予定しています

お問合せ先

送り出しメンバーがいなくても参加したい…子どもがいるので参加できない…などあれば、まずはご相談ください。一緒に参加できる方法を考えましょう。

(株)ヒューマンバリュー：担当 保坂・佐野 (info@humanvalue.co.jp)